## 海賊史観からみた世界交易史・ 試縮

稲賀 繁美

ここでは放棄し、 視点から捉えなおす。 本書の意図にそって、 具体的な案件につい 複数の専門研究領域を跨ぐ概観となるため、 第Ⅲ部全体に鳥瞰を与えるため、 ては、 次章以降で詳しく検討を加えることとする まず本章では、 個々 最近五百年にわたる世界史を海洋交易 0 問題について詳細に踏み込むことは

## 海賊を再定義する

### ッタもん」 騒動

バ

作した。 撤去されるという事件が発生した。 同時に飛蝗のことも意味する。岡本氏はそれを利用して、 される商品のことを指す。これにたいして「パッチもん」は偽造品、 ズが展示された。「バッタもん」とは、 ッタもん騒動」 ところがこの展示にたいして、 から始めよう。 タ ルイ・ヴィトンから、 〇年、 タイガ氏は、 語源は定かでない 神戸の ル ブランド品の皮革製品の皮をまとった殿様 ファッション美術館に岡本光博氏の イ・ 偽造販売に該当するとのクレ が、関西では正規の流通経路を経ることなく販売 ヴィトンそっくりの文様を帯びたオリジナルの 紛い物を指すらしい。 バ イムがつき、 ッタは日本語では バ ッ 夕 バ ッタを制 展示が シ

五七

でオス

7

ン

っている世界史の潮流である。それを海賊史観と呼びたい ブランド代理店の頑なさは、 こちらは木彫でこしらえたが、 失笑を買うかもしれない 展示に際 してはロ 本稿で問題にしたい ーゴ・マ - クを隠 した、 のは、こうした事件の背景に という。 冗談を解 しようとし

海軍をはじめとする軍事行動が展開した。 として閉鎖措置を取 規軍とは別 今日 て、 どのような理由から ソマリア沖海賊 って人質を取 の私兵に相当するが、それならホルムズ海峡閉鎖となると、 中国語 ħ ば、 り、 では海盗といえば、 やイランの行動を犯罪行為と決め ペルシア湾奥の産油国からの原油の供給が妨げら 莫大な身代金を要求する職業集団 「正義」と看做されるの 例えばマラッカ海峡 では海賊行為と、国家の軍事行動とは、どこで区別されるのだろうか 付ける国際社会なるものの判断は、 のことが脳裏を過ぎる。 で航 行する船舶を襲う輩 どうだろうか。イランが国家の軍事行動 れる。これを阻止すべ これらの海賊 や、 ソ 11 7 ったい 1) く は、 7 米合衆国 で の正

### さな海賊 大きな海賊

賊行為を働い 植民地支配の末端にあって、 ここで唐突だが、 ゴーガンときては、 野生の 日本の北斎漫画を借用 一画家は、 ている、と。ゴーガンのタヒチ風景は、実際にはエジプト 八〇年代フェミニズムは画家を糾弾したが、 はたして海賊だったのだろうか。 画家ポ ついこのあいだまでペルシア人や日本人からちょろまかしていたが、 Ì Ļ ル タヒチ社会に逃亡した、 ・ ゴ ー さらには、南洋の小島にたたずむ女性の姿は、 ガ ン (一八四八 。かつての友人のカミー ~一九〇三 「小さな泥棒」に過ぎなか 所詮ゴー を取 り上 ガンは、 ・サッカラの墳墓の壁画のモチ げ よう。 ユ ・ピサ ボロブドゥ ったはず。巨悪はといえば、 西欧帝国主義の世界制覇による 南太平洋の 口 は、こう悪態を ール遺跡の 今や南太平洋で海 タ ヒチに 仏像 0 ・フを流 の転 7 そ 11

うした世界支配を築きあげた西欧の覇権そのものではなか ったか

海にしても、 らにはマニラ ( 五七一) 域(一五〇八)、 そして実際にも抗争や諍いが頻発したのは、この地球割譲 段階である。 とするのが大原則だったが、 なんと地球全体を山分けしようとい 見」して二年後のことだが、トリデシリャス条約というものが締結される。これはスペイントとポ ガルがインド西岸のゴアを占領するのは一五一一年のことだが、バスコ・ダ・ガマ(一四六〇~一五二四) 歴史を遡ろう。 人のダウが行き交っていたアラビア海に、まさしく海賊そのものとして侵入したのが、ポ はたしてソマリア沖海賊を、 およそ交易もない処女地の海に航路を開いたわけでは、まったくない。 割譲すべき経度の混乱から、ブラジルは今日に ブラジル東岸 (一五二二)、 一四九四年といえば、 であった。 なにしろまだ新大陸とインドとの区別も不明なら、 う、とてつもない 思えば、近代の世界体系は、 クリストー 他方がマラッカ海峡 (一五〇五)、バタヴィア (一五一九)、 人倫に悖るとして非難する権利など、 - ヴァル 海賊行為だった。 の分割線の近傍でのことだった。その一方がカリ いたるまで、 コロン 海賊行為が形作ったとい  $\widehat{\phantom{a}}$ 四五 東廻りはホルトガル、 ポルトガル語圏に属することとなる。 一一五〇六) 太平洋の存在も知られて あるのだろうか 何世紀にもわたってア が って語弊ない。 7 ルト 西廻り メリ ル カ ガ 香料諸 がスペ 1 ガルとで ポル イン / ラビ 0) ブ海 0

地中海がイ が大航海に乗り出したのは、 した のは一 再 -スラー 征服 おける制海権をキリスト教連合国側が掌握するのは、 四九二年、 」reconquistaという表現は、 ム圏によって支配されていた、という現実が立ちはだかってい 帝国に勝利を得てからのことに過ぎない 奇 しくも いうまでもなくインドそして東南アジアの資源と富を目指しての 「新大陸発見」の年だっ それ以前に支配の実績がない た。だが、 それよりさらに九〇年の後、 スペイン半島をキ 以上、 った。スペイ 眉唾といわねばなるま リスト教徒たち ンのグラナダ

の

当時の

明

北方から

0

脅威に対する防御に追われていた、という現実も

あ

ときに競合する磁場と

東南アジ

ァ

Ó

島

嶼を把握

しようとする仮説であ

る

そこに

は恒

久

的

313

九二~三 五二七 は台湾にまで進 7 h 九 八 慶長(一五 その遠征 61 1 玉 ンとポ その 際情勢にあ 出 Ļ か の矛先は台湾にも向 九七~ ル 台南に れ 1 とまったく ガ 八 6 ル たわけ にはゼー 0 0) 統 役 ---の同 である Ш ランディ 壬申・ 時 ij 代人だっ Ś て、 丁 -ア城、 日本の軍事的統 n 酉 7 H 0) 17 たのが、 役で朝 北端の淡 0 た 沈まぬ帝 世界帝 鮮に遠征 豊臣秀吉 水には ---者に 国 の野望を 0 2 した秀吉は、 # 皇帝と Ò シ ・  $\widehat{\phantom{a}}$ よう 五: 抱 K ミン な 11 て君臨 征 た東西 九 本来は 服欲 ゴ 一城を築 八 が 0) だ 大明 きざ 覇 64 0 0 7 フ た背景 61 制 工 わ 文禄 P 0) ~ 抱 ス

ことだ。す 秀吉のすぐ後に 年の 国 iv に位置する。 う凄惨な事件が発生す 五七一年に占領 一政策に -ズに抜 ことだっ でに 平戸に ポル け、 たる た たたた 当時は東南 トガ そこから大西洋を越えて、 7 ここでも勘違い 分る。 め、 伊 シ 商 ボイ 館を 達藩 ル 0 マ は る。 規模を まも ナで、 アジ ニラで足止めされ マ の支倉常長 カオを一五五 2 ア なくア 0 物語 に日本人町 出先機関 お りに巻き添えを食 してなら カ \_\_-<u>二</u> 五 逸話と 八 プリ 年に 0 七 芒 ゴとの ない た常長 思 年に占領し 欧州では 0 V1 進出 惑の は 2 - 二六二:) のは、 ジ 相違 も著 ガ ヤ 行が日本帰還を許され ワ レ 口 2 てい なに も作用 て落命 0 しく、 オン船航路 だろ マ バ 、教皇の が太平洋を横断 タ たが、これ も常長は前 ヴ あたかもそれ して、 1 た日 アに築城を 拝謁を受け が 開 1 本 と対抗 人未踏の <u>Ļ</u> 丰 か · リス れ Ó たの と交差する 7 名近 見開始 お 状況にあっ る 人たちをオラン が航海に ŋ は出発後七年を経過した する 航海中に江 力 常長  $\dot{o}$ プ るように、 存在 乗り ij たス  $\supset$ 行 か 出 ダ 0  $\sim$ 戸 b オラ 旅程 たの 1 5 側 年に シ 葋 n が では もそ は、 虐殺する ン が ダ VI  $\exists$ マニ 香料 はま な わ 0 n 13 W

## 「近代以前」のアジアの海

目の宦官で で 土す に先立つ世紀、 大動脈 0 0 焼き物 ることで著名だが、 る壮大な企てだが、 水先案内に頼 あった鄭 〇五~ | 0 和は、 その多く たことは 四三三)。 永楽帝治下 ったものだった。 最後の航海ではメ 日本語では 八世紀 例えば それもマラッ 中国製品 0 明で か 力 5 1 「大遠征」  $\Box$ 海のシル を模したも \_\_\_ 七世紀に至るそ 郊外 ッカ巡礼を果たし カ海峡までは既存の中国商 和 0 フス ク لح ŏ 口 呼ば だとい 1 夕 1 K れるが 0 1 などと呼ば 一四三四) てい わ 陶片のうち、 遺跡からも n る。 毎回二万六千 n による大遠征が七 n X 知ら は 0 ることもあ 使節 通商航路 ---ħ 五%近くが 派 る。 造 るが 人にの 0 フ を )航海 Ź 伝 中 回 タ であ ح ぼる人員 国 イ 陶 0 わ ンド洋 航 ŋ 磁 は 大量 路 0 で動 色目 で が 7 企 東 か 0 西 員 7 0 5 0 た 物 12

鄭和よりさら ったバ 0 リ王国をも よる n 0 でに立派 グ から ダ 方王 本遠征 ッ に一世紀先立つ元 K 略 ヴ な交易路が 0) 帰国 は、 0 ア おりに動員され して は、 iに際し 文永 いる かつては 威 0 ワ 消長に 成立 ル (二二九三)。 (一二七四)、 て泉州 タ して 百万の人口を誇 代に た福 ス 応じて、 から いたか は、 は、 建など この 元寇の後、 0 弘安(二二八 東方見聞 そ 海路を利 らこそ、 海域 の出 の労力圏 こったが 12 身者も多く 録 用 お 中国や朝 ヴェネチア商 は L 1+ 一二五九年に 0 7 る 膨張と縮 0 記載を信ずる 13 勢力 役、 、含まれ る 鮮半島海岸  $\mathcal{O}$ と 貿易風 消 人はこ 小を繰り返 L 7 長を曼荼羅に喩える 7 Vi フラグにより陥落させら 知 たも 限 は れ 0 倭寇 5 を利用 風 ŋ れる 待ちの のと推定され マ 0 と推定される。東南の被害を頻繁に受ける そう が、 で ル きた。 ため二 コ 元 した複数 はその ポ 仮 そ 年 1 说 を提  $\hat{\sigma}$ を П 後ジ 彼が ħ の勢 -二 五 る航 + 帰 万圈 アジ Vi た。 ŋ 国途 7 7 が 正立 ク だっ れら シ ガ Ľ

### 第Ⅲ部

## り、 制海権を主張するような権力形態は稀にしか登場しなか

成立の背景

は極東でも繰り返される。 六六) と同時 恩恵に預かることに心を砕いていた。 それは合法の装いを凝らした海賊行為だった。 ひろく東洋に は 代人だったが、 やがて欧米列強が力をつけるや、 ントの海戦に先立つ時期には、 欧州勢力が侵入する以前 おい て、 同様の特権を、 前者は後者から、 租界を築き、 フランソワー 0 アジ そこを拠点として、 領事裁判権などの名の外交特権として巧妙に活用することで、 欧州 7 トル 啓典の民ゆえの恩恵としてキャピチュレイション 0 の辺境に位置したキリスト教国は、 海 世 コ領土を蚕食する口実へと転用されることに 域 の様子を足早に概観 四九四~一五四七)はシュレイマン一世 ゆくりなく植民地獲得を成し遂げてゆく したところで、 むしろオス 再 度、 なる14 の特権を得る。 (二四九四~ 視点を西洋世 マン帝国から 欧州列 らであ 手管 五

四)による 『戦争の海と平和の海』 て現実主義的な配慮のもとに編み出された法理論だったはずだ。 呼ばれるが、 端に控えており、 ここで国際法という法思想の登場が問題となる。 六二二と論争を交える立場にあった。彼の法理論は、 一覇権へ 「封鎖海論」 その の異論とし この訴訟に関して、 『戦争の海と平和の海』(一六二五)は、 も、その背後には、 (禁書となったため、 て提起されており、 グロティウスはスコットランドのウ 出版は遅れて一六三五) シンガポール海峡でのオランダ側によるボルトガル船拿捕問題が発 それは後年になっても、 グロティ 死後、 あくまで英国との海上での覇権争い ゥ Ź ウェストファリ とい 若きグロティウスの ○一五八:~一 った対抗一説との闘争を余儀 イリアム・ウェルウッド ジョン・セルデン 六四五 ア条約 ||自由海論||(一六〇九)は بح 二六四八 11 えば のな (一五八四~ 0 なくされ か 五七八人 で、 きわめ 0 一六五 た。 父

をなし、三十年戦争の惨禍 一部に組み込んだ。 戦争  $\dot{o}$ 終止符をうつことに貢献したものとして評価された。 海と平 和 の海 で、 グ テ 1 ウスは公海を規定 Ļ 公海に オランダの お it る交戦 権を

海賊行為を制限する恒久的 うだとすれば、 為と規定するうえで、グロティウスの法理論がきわめて有効な枠組みを提供したのは、事実だろう。だがもしそ 代表される、エリザベス女王陛下公認の私掠船の横行が、圧倒的な猛威を振るった。そう代表される、エリザベス女王陛下公認の私掠船の横行が、圧倒的な猛威を振るった。 ルトガルの覇権を掘り崩したのはイギリスだが、 裏にあったのはいかなる現実か。 恐ろしく明確な事実がひとつ、 な合法的枠組みなど、 端的 にいえば、 あからさまになる。 不在に等しかった、 そこでは、 無法状態に等 キャプテン・ すなわち、 という実態である Ĺ Vi 私掠の横行にほかなるまい 国際法成立以前の西洋世界に ド レイク した海賊行為を違法行 五四二~一 五九六) ス ぺ 1

ため ずべき行為ではない。 を待たねばならない。そのラッフルズが、 際法の枠組みによって、 レイ人」たちに要請 エ アンボイナ事件の余波を受け、 の制海権が正義にして合法と定義されたわけである。 フ が再び東方に触手を伸ばすのは、 貴殿らにとって海賊行為が恥ずべき営みでないのと同様、 1) ア条約以来の したという<sup>20</sup> したがって、 マラッカ海峡の海賊 「国際法」 ここで何が発生したかは、すでに明らかだろう。 英国は香料諸島周辺海域からは手を引き、 イギリス主導の交易に協力して頂きたい。 だったとい ラッフルズ(一七八一~一八二六)によるシンガポール占領(一八一九) マラッカ沿岸のスルタンたちを前にした演説の記録が伝わる。 於行為は、 えば、 違法行為の烙印を押され、それとは入れ替わり ラッフル あまり に皮肉だろうか ズの偽善的正義感を支えたのが われわれ英国人にとって、 しばらくは そのように英国官吏は地元の わばグロテ インド経営に専心する。 交易はなんら恥 イウ II ス仕込の かならぬ 有名な 7 玉

# 世界史記述のさまざまな方法

### ヴェネツィアと堺

態学的仮想が人間による物流を完全に無視していた欠点を指摘し、その経路を加算して梅棹図式を補完した利点 半世紀後の今日から省みれば、この梅棹の理論にも、綻びは隠せまい。 業生産量の増加率を統計的に計測する。 revolution があった、 発展史観に対する対抗的反論という側面もあっ 1000) ささか無理やりに生態学的体裁 リスを嚆矢とする西欧近代の工業革命 industrial revolution に対して、 その両端に位置する西欧と日本とに、文明の生態学的遷移において並行現象が見られるとする仮説 梅棹の理論は、 れる。両者には共通して、 0) 所謂近代化が成立したのは、 川勝平太が提唱 「文明の生態史観」 とする言葉遊びを含む対抗概念だが、 ユーラシア大陸の中央を東西に分割する乾燥地帯を軸として、 した文明の海洋 に依拠しながらも、 の説明を加えたもの、 当時まだ世界史大の有効性が信じられていたマルクス主義による資本主義の 24 旧大陸では西欧と日本だけ、という歴史的時点にたった同時代現象に、 史観を簡単に復習しておこう。 た22 これに加えて、速水融が唱えた学説に、 そこでは海路による通商が視野から欠落してい と批判することもできよう。 速水はその実証的裏づけとして、 それは六〇年代の日 日本を典型とする極東には industrious 川勝は先行する梅棹忠夫 川勝の 東西文明を四 勤勉革命があ 理論に 本の驚異的経済 比に対す Iつの ることを指 九〇 だった 成長 0) 1

従来の学説では、 だがその裏面には、 して西欧から綿織物や蒸留酒、 西欧近代の 「離陸」 ^° ル | は、 から欧州、ある 武器の 7 クフリ 輸出と 力 か 5 11 南米へ は日本から中国 いう相補的三角貿易の展開によっ 0) 奴 隷 0 輸  $\wedge$ 典 の、銀の大量の移動が 南米 Þ 北米か て担保され ら欧 州 2  $\wedge$ た 0 と看 4

# や中国からの輸出超過の決済は、こうして流入した莫大な量の銀によって賄わ n

会に対して高らかに喧伝しようとする岡倉の、 (一九〇六) を開ける。 約的な財の運用がなされた日本との対比を、 チアと讃えてい てみるのも一 は、 一九世紀末の一八九八年に、 堺が を刊行する。 それから何年とおかず天心こと岡倉覚三(一八六三~一九一三)はボストンで英文執筆した『茶の 生んだ茶人、 興だろうか。 象徴的な役割を担った港町として、いささか恣意的な選択では 11 ささか日本側に身贔屓な評価ともなろうが、 西洋世界の物質的繁栄に対して、 千利休の自刃で幕を閉じる。 (26) 一六世紀末に南欧から日本に至った航海者の多くが、堺の繁栄ぶりを東洋の そのヴェネチアでは、 このふたつの都市の命運に読み込むことは、 確固とした意志が貫徹されていた。 そこには金融資本主義とは対極をなす審美観を西洋社 東洋世界の精神性を、 今日に続く藝術の祭典ヴェネチア・ビエンナー 資本集約的な金融 あるが、 誇張を辞さずに対比 の発達した欧州 ヴェネ けっして無理ではある チアと堺と ٤ 労働集 ヴェネ レ 本 が幕

### 正統と逸脱と

表として参加している。 ては評 そのヴェネチア そ の混同だとして酷評を浴び、 高い評価を得た。 のとい に値しなかっ 竹 ってよ の骨組みに和紙を貼った空洞の造形だったが、 ビエンナ V 127 た だが同時に彼が自信をもって出品 かれが展示したスライド・マントラと呼ばれる大理石の渦巻き型の滑り台は、 欧州 Vi わ の美術ビエンナ ば絵画 そのためノグチは大賞を逃したとまで風評された。 \_ で彫 九八六年に 刻は レ 「美術」 に相応 は イサ だが、 しい Á した「光の彫刻」は、 展示品から、 ノグチ この段階では、 H 1本起源 0 九〇四~ 日本美学は疎外された 提灯では範疇外、 照明器具に過ぎず、 西洋における全うな 九 「光の彫刻」は 八八八 が とする 7 メ ij デザイ 岐阜提灯に 力 彫刻作品 値 国代

治行

0

念

は

異質だろう。

とは

Vi

え中

国

0

文化

大革命

が

révolution

culturelle

n

7

0

断

は、

ごく最近

でも繰

り返

し発現する。

工

ル

ア

ナ

**´ツイは** 

7

フ

カ

0 され 力 7 原 は なら て、 つ れ 0 て な 7 13 とした諍い ヴ 西 対 フ ・エネチ 欧 IJ して北 とい カ現代美術は ル パネサン Ź う教条へ 米や が発生し ビ 西 ス エ 美術 T ンナ と摩 あ フ た。 と並 Ś ij 、まで美 展示場所として幾つか 'n 力 レに招待され 替わ ベ 在 るこ 住 術 0 0 専門家か た、 館 となど論 13 と 展 た作家だが、 11 示す 0 外、 5 7 ベ きも とする 猛烈な反対の声 の美術館ととも 0 か 差別意識 であ れ が二〇一一年に日本で Ď, が 間 が ij 違 存 あ 在し 大阪 が 在住 つ 7 った b た 0 0 民 が 0 国 【族学博 で 立民族学 それ あ が 今で を開 館 か て 0 は 7 < V は が 7

ことになる。 ている。つま 民藝協会から 筋 か カ る 今で べ 5 だがその会場 めに茶道を唱道 才 それ セ 第二次世界大戦下 アニア は、 で 世を遂げ 0 T する 当初 は 段 フ 階 13 1) の美術を 時 0 で 力 L 期 たが 不 古典 た は、 ようと志し . のことだが オセ 満 13 民 Vi 中 0 0 アニ 声 0 藝 0) Vi 殿 か は ささか に展 日 が 堂 東 本 7 5 漏らされ ル <u>-</u> 南  $\dot{o}$ 0 示する 0 民 南方 美術 皮肉なこ 7 げ ジ ル 〇八年に T た、 美術  $\sim$ ح ノペ リの 非 0) 0) 同列に置 民衆 進出 洒 とに、こ と 館 欧 の風評 ブラン は、 や 一藝術を 0 0 民 時 現代美術 かれることに難色を示 ノ「 期 0 が ij 1) 俗とは袂を分か 茶道復 伝えら Ē 13 で日 1 自 美術 南 分た 本 0 顛 聖堂たる 方 れ 館 0) 洪栄圏 ち  $\hat{o}$ た とな 民 0 衣鉢を継ぐ か 百 0 0 つて 類 0) た29 ホンビド 大 民藝 項 規模 西洋美術に伍する展 したことに ح と看 岡 ·柳宗悦 0) な 覚 做す と題する 展 気覧会が な を創始者 公表さ 値 観を タ 欧 さ とす 美術 \$ 0 亦 れ で れ 7 さ 17

2 たして る ス 0 0 東洋 0) 0 イ 人物に集約するの 伝統を正統に位置づ 西洋 7 ピ 1 0 な影響力を発揮 -主義を唱 美術 :史の 0 代 検討 フ V アジ 0 た岡倉天心が で revolution と 自己展開を、 n ある。 このうち 避 を 7 0 え ル it 0) 司 た、 k. は 語彙の した。 る お 7 酷だろう 世界精神の具現を 編年 ける E スリ 25 13 ベ イ インドで上梓 13 非西洋を周縁に位置づける価値 日 だがへ 歴史 的 玉 う言葉の ン ランカ ル たし 枠組 民主義  $\widehat{-}$ 本美術史の が 的観 八六一~ で、 か Z しばしばその役割を負わされてきたの に王朝 身の ゲ 東西比 西洋 0 ĺ 欧州 東洋史のそ 族主義に 具現を認 沿革のうちに読 た英文 アナン 0 欧州 0 0 九三 較 に見る価値観 交代 revolution は 回の 0 中 ダ 無意味 思わ 著作 8 心 を天命に帰 史観 ñ ようと ク とは互 『インド X 1 では 東洋 は中国 理論 は、 マ み込もうとする著作だった。(31) ・ラス は、 なかろう ひとり 着させる思考法は 換可能なも 的 7 0) その時代精神に関す 美術 0 襄 理 西洋 11 ワ 钌 易姓革命とは Í 欧州 0 ち 中 理想』に受け は、 を 心主義 (一八七七~一 辞書学の国 提供 0 にしか適用 なのだろう ゲ  $\wedge$ ドイ ル と名指 光美学 理念か異 7 ゲ 人民 " できな され る 0) 0) 九四七) 的 E が さらに 議 哲学者 による 著者 なる 威 V 的 から で 枠 在 0 0 自 あ 身 0) 0 間 7 0 0 理由 題 美術 試 九 元 0 Z で を検 ぶみは ゲル 力転 7 は 13 を ラ

大革命と並行し

そ

西欧世界や日本では

学生叛乱が

発生して

たことを、

三〇年後になっ

7

知

が

そ 進 理

れ

を無碍

12

禁止 な扱

する

わ

H

b

Ø

<

ま

元紅

衛

兵で、 一命も、

гþп r|7

玉 国

文筆家協会会長と

0 動

で互換可

能

11

を受け

Ź

フ

ランス革

流

0

電

命

観

0

### 時代錯誤と輪廻転生

絵画と中 黄永砅(ホァン・ヨンピン)が トラス 偶発的 のが、 ンスは、 の進展と表裏一体に進行した過程でしかなかったことを、 な同時性 一番手っ取り早い手段だったともいえよう 美術作品として展示してい を編んでい 国絵画とを対比させつつ統合するには、 従来の は  $\wedge$ る。だがこうした試みは、 その ゲル主義的な欧州中心史観による世界美術史記述から脱却する企てとして『世界美術 反 対に機 《「中国絵画史」と『現代絵画簡史』を洗濯機で二分間攪拌 械的 る な編年による世界史の虚構性を浮き立たせる。 朗世寧の世代に至るまで、 かえって世界美術史という枠組みの成立が、 このように洗濯機で両者を攪拌してター 裏書してしまう。はやくも一 ほとんど相互交渉もないままに進化し イギリ ・ブラ・ したと題する 九八七年に 欧州自身による世 ス  $\mathcal{O}$ ジョ it た欧 ハル 中国 オ

語綴り 美眼によって西欧が自己表現を刷新 アフリカの奥地やアジアの懐に未知の精神性を尋ねた段階といってよい。ドラクロワー・ビルハー そのうえで改めてヘーゲル主義が できる。 十九世紀以来の欧州美術史がいかに非欧州世界と交渉をもったか、簡潔に要約すると、 なら 東方趣味とは、 東方趣味 Orientalisme、 八五三~一八九〇) 西欧が自らの絵画の文法で東方世界を描写した段階、日本趣味とは他者の異質な審 世界美術史構築のうえで、 した段階、 を経て、 日本趣味 そして未開主義とは、 18 ブロ・ヒカ Japonisme さらには未開主義 Primitivisme ソ 限定的な有効性を発揮 (一八八一十一九七三) 物理的に世界制覇を成 に至る系譜を思い描け してい ることを確認 し遂げ そこには の二段階を辿るこ た西洋世界が フランス から そ お

して、 るかを知ることはない。 さらに敷衍するならば、 ニズムと定義 れば太古の美的 体験する狂気に憑かれた異端の学者としては、アビ・ヴァールブルク(「八六六~一九二九) anachronisme すなわち時間軸のうえでの倒錯を経験する。 そうした西洋世界の自己意識展開の現象学として構想された世界史は、 に見て取れ この逆転をルネサンス美術における古代の生き残り、あるい バタイユにとっては極め付きの現代性を発揮する。最古のものが最新の価値を得る。起源が到達点を指見て取れよう。ラスコーの洞窟に発見された人類最古の壁画は、人類の視覚経験を刷新する最新の事例  $\tilde{\wedge}$ た三島由紀夫(一九二五-一九七〇)の顰にならうならば、 したのは、 体験は身体的な経験を介してルネサンスに亡霊のように蘇る。 ・ゲルの精神現象学に比べて、より荒唐無稽な企てだとは断定できないことになる。 |島由紀夫(一九二五~一九七〇)の顰にならうならば、転生する魂の遍歴としての チャオプラヤ川のほとり、 輪廻転生史観といった構想も不可能ではないだろう。 フランスの美術史家、ジョルジュ・ディディ=ユベル バンコク市内に位置する上座部仏教の暁の寺を舞台に 端的な例はジョルジュ・バタイユ(一八九七ー) はより正確に これ もとより人は白分が誰 マンだが、この論法を仏教世界で(39) 「死後の生」 を白覚的 到達点にお が知ら な方法論 Nachleben として の転 的 る。 アナク 彼によ 例と 口

のア ij ス してよい 魂 1 ナル絵画に対する贖罪を代価に、 たという意味で、 ラリア大陸の先住民、アボリジナルたちの は だろう 0 認知を通じて、 西洋起源  $\wedge$ 1 の歴史的自己意識は ゲルの精神現象学の 現代に 輪廻転生を果たし 領土的支配の対極をなす精神的世界を発見したのだ 末裔が最後に成 「藝術」は、 英国 7 の海賊行為によっ Vi 始原の営みが現代の西洋 L 遂 げ た精神的 て横領されたオ 次 元 で 0 的 発見を か ースト ・リア 証す 値 観

# 三 現代の海賊的実践とその交易上の先

### 

を支える商業市場は、 構想の下地をなす43 の自己認識の内面深くにまで食い入って機能するに至っている。今日、 以上確認したように、 の価値観に 「海賊行為」 その政治的地勢図のうえで、 この二重構造のうえに巣食った空中楼閣である 南欧 から英蘭に の汚名が浴びせられるに至った。そしてこの不平等な価値意識 至る西 [側世 西側世界の理念が正統と看做される一方、そこか 界の五百年にわたる海賊行為が 例えば世界美術と呼ば  $\wedge$ ーゲル主義的 は、 れる営為 13 ら排除され な世界史記 や非西洋

賊行為の痕跡が残存 術家たちは、 西洋絵画史と中国絵画史とが洗濯機による攪拌によってパルプ状に変性して以 非西欧の市場から西欧正統の美術市場への参入を目指して、 Ļ 海賊行為はそこでいかなる合法化の洗礼を経験したのだろうか 鎬を削ってきた。 来、 中国をはじ そこに め東ア は V か ジ なる 7 0

る。まず、徐氷がある意未で二女号こ豆豆(・・・・・・・・・・・・・・・・ここには周到な作戦が織り込まれあり、きちんと学習すれば読解が可能だ、との主張をするようになった。ここには周到な作戦が織り込まれあり、きちんと学習すれば読解が可能だ、との主張をするようになった。ここには周到な作戦が織り込まれ 徐冰 した独自 (シュウ・ビン) は、 徐冰がある意味で二枚舌を駆使していることを、 の漢字が、 かれの作品の上に繁茂しているからだ。近年、 偽文字を西側美術市場に輸出したことで著名な藝術家。 見落としてはなるま 作者は自分の発明 偽文字とい した漢字にも う Ó Ŕ 体系 彼自身 7

だということを知識としては知ってい これ見よがしに誇示している。と同時に、彼が主要な標的とする欧米の観客や批評家たちは、 一方で彼は、 漢字だということを、 自分の出自である漢字文化圏の同胞に対して、 彼らは読み取ることができないの ても、 その事実を識字の水準では認識する能力を欠い かれの創作した漢字が偽文字でしか 1: W. わば徐冰は離信犯とし ている て偽札ない の文字が ない 7 n ことを、 らが読 文字

化圏出身者にも、 に対しても、 る秘訣は、 海賊文書を、これは海賊文書ですよと宣言しながら見せびらかして たんにそれが偽札であることを見抜けない対象だけではなく、 有効な対策を講じているか否かにある。 自作を納得させるだけの工作を成し遂げた。 徐冰は、 彼の漢字が偽文字であることを弁えて いる。 そして偽札作 それが偽札であること弁えて が社会的に成 13 8

カサマ 真文字や契丹文字などには、周辺文化圏の心理的劣勢複合が、 れるか否かに掛かっている。思えば漢字文化圏が圧倒的な権威をもっていた時代、 欧米の観衆にも読解 て構築してゆく 組み合わせることで意味を生産できる漢字は、基本語彙の合成によって複雑な体系を自らに内在する力学によ つ た形跡も濃厚だ。 ば偽文字というべき表記法が捏造された。日本での仮名もしかり、 とともに徐冰は次の段階で、 偽文字の 体系内部の 発明は、 すなわち彼はアルファベット 漢字文化圏と非漢字文化圏とに架橋し、 可能、 力学が判別することではない。それはあくまで外部の権力によって正統との認知を得ら けっ 習得容易な偽漢字の 漢字という表意文字の原理を駆使し て特異な逸脱行為ではない。 出現である。だがその結果生まれた生産物が正統 を部首としてそれを組み合わせた「漢字」を発明して 一方から他方への越境を果たそうとした藝術 不用意に複雑な文字体系の構築へと人 偽文字文化の海賊論が要請される所以 て、 韓国で発明された諺文も 自らの 偽文字を増殖させ 漢字文化圏 しかり の周 7 辺地域に、 11 (々を駆 それともイ みせ 0 さらに女 部首 た り立 0 13

### 馬鈴薯型陶片の跳梁

体 明の絵文字で作 なじように偽文字か 偽 つ て防 衛線をまんまと突破する海賊 ったネオン管の壁を 5 の出発し たも -ト うひ 行 口 為が りの イの馬」と名づけたが、 藝術家に、 か れ のオランダ社会へ 倪海峰 これ の参入と重ね は 越境の比喩としても卓抜だろう。 イフ エ と あわ が 知 'n せになっ n 7 11 n る は 識 ĪĒ.

さら

ベ

ル

ナ

ル

フ

7

ン

リザ

ン

ベ

ル

٤

13

う伝説

的

な指

物

師

0

手に

なる横領行為に言及すべきだろう

ダ社会で市民権を獲得するが、 望を満たすうえでも した代物を入手したがる。 して手の平に れば美術とは 偏重となり ずからのオランダ社会へ ヤ オランダとの 0 ガイ で 13 オランダ モはジャガタライモとも言うが、 が 実際近年では は 転がす かけ ち えない ノに運ば な西洋美術 同じ模様を卵 がえ 好適だった。 玩具は、老人むけの健康器具としても、 Ď れ、 のなさ、 交易を追憶させる とする、 お互いに極めて類似しながら、 の編入を物語 いまではそこの食卓に不可欠な帰化植物となった。 倪海峰は呉須 への対抗でもあり、 大の陶磁器の 一品性が希少価値に結びつ 1 それと同 市民ひとり マヌエル 時に の文様を描き込んだ模造陶磁家具販売業者とし ってみせる。 それはジャ と同時にこの球体はジャ ٠ 塊に塗布 ひとり カント以 「倪海峰」 また文房四宝のひとつ、 が、 し始める 来の 掌に巡らせることで愛玩できるその触覚性は、 カル は くが、 ふたつと同一でない馬鈴薯の形状は、こ 市民 個の倪海峰 西洋美学に対 タに由来する。 長寿の それ 公認 と同時に人々 ガイ ための実用的日用品 はデ 0 商標 作品を所有 水滴をも想わせる形状 L ル モを陶磁器 南米原 て、 フト焼きの trade その経路を辿ることで、 は隣人が 控えめに反論を提起して 産 mark へと昇進を果たすことに したとき、 で の馬鈴薯は 模倣 表情 て、 所有 として重宝され した代 を喚起する点 文字通 作者は しているお宝 は、 遠路遥 用品 ŋ Vi 0 非実用で とかく 矛盾 わ ブラン でも ば マジ 11 藝術家は オラン た欲 類似 視覚 ヤ お ワ

## 輸出用漆器の節操と海賊性

絵で王朝風俗 後に紅毛蒔絵 八九二~一九六四) は中国陶磁器 china であ 陶磁器交易の実相があったことは、 客の趣味と需要に応じて、 工 一の象嵌が では たしてこうした海賊商法は、 画が施され へと変貌を遂げることが知られる。 伊万里 のコレクシ 一面に施され 0 た平面構造の ń 模造が焼かれ、 他方は日本の輸出用漆器 japan たろう ョンが雄弁に物語るとおりだ。蒔絵 変幻自在な形態を帯びていた た櫃を所望したの 函を好んだ。 ロンドン大学付属博物館に 有田からは景徳鎮 現代に特有の現象なのだろうか。そう問うと念頭に ポルトガ 本来、 に対し 日 て、 0 ル人たちが聖書台や聖像の 偽物が輸出され 本特有に かれらに取っ の世界に目を転ず 、寄贈されたパーシヴァ E出された。その虚虚実実の化かしあい陶磁器の流通に関する先行研究も示す て真正 て代 なる わ 蒔絵製品 'n 0 たオラン ば、 格納容器、 ル・デ のほ 蛮蒔絵が 0 はずだ · ダ人 あるい るの グヴィ たち ッド卿 は蒲鉾型 七世紀前 よう 方で

実際には荒 倪海 なら 0 どのよう 目 1しよう 唐無稽 平戸商館長を勤め 峰 商 なかったことになる。  $\dot{o}$ こ先祖 な題材に取材 は、 0 13 総柄を、 0 ロンドン 平蒔絵で王朝絵巻と思しき絵柄 が でっ すでにここで活躍 ちあげ 蒔絵師たちが たカロ した絵柄か、 のヴィクトリア&アル 本論 の正統性 ン (一六〇〇~一六七三) の手を経て手配され 頭に 判別が が、 輸出向けと知っ して 戻るなら、 ここに実現され つかない Vi バ て、 ート美術館所蔵の所謂 が精緻に施されてい ほ 15 かなら ッ て造作 おそらく事実はといえば、 タも 7 82 14 2 徐冰 る、 したものらしい 0) とい や倪海 元祖 る って語弊ある 『マザラン公爵家の がここにある だが今日 たと思 は か Vi n わ Vi 0 13 5 ば正統なる海 かにも日 わ Ó 豪華な贈答用 家か 本ら とい 定 で う破格 えば ても、 0) 17 大

326

把捉することができたのではなかろうか 名のもとに断罪しようとする覇権構造の由来も、 真実を垣間見ることが許されるのではあるまいか。そしてここまでくれば、そうした歴史の実相を、 グッチやフェンディやシャネルの商標をプリントされた皮革たちが、殿様飛蝗の形をした型に皮膚移植されるこ に相応しい。そうした輸出漆器の蒔絵たちは、自分たちの輪廻転生に不平を託つこともない。それなのに、 海賊行為として断罪されねばならないのだろうか。交易路を通じた商品の伝播と「変態」にこそ、歴史の いわば「死後の生」を授けられて、見事な転生を遂げたという いまやくっきりと、この五百年間の人類世界史の眺望のなかに 海賊商法の なぜ

流通は、違法操業の海賊行為として摘発される憂き目にあう。それが交易の宿命なのだから。 なにが違法行為となるのか、遊戯の規則をあやまたず弁えておく必要がある。 最後にひとこと、 きわめて保守的にして体制迎合の蛇足を加えよう。 海賊行為を成功裏に完遂するためには、 さもなければ、 バ ツタも んしの

View of World Art History: beyond Oceanic View of Civilizations, Towards a Tectonics in Trans-cultura Transactions (TTT) & Climatology of Cultural Conflicts (CCC). なお本稿は、台湾大学で二〇一二年一〇月七日に行っ た筆者の講演を、 本報告は、筆者が現在計画中の「文化翻訳の地殻変動、文化問葛藤の気象学・序説」の一部を構成する。Pirates 111111 求めに応じて要約した原稿である 徐興慶編 一五二頁に細部の異なる形で掲載されており、 近代東アジアのアポリア
台湾大学出版中心、 済州島における国際会議、 "I HAVE"

文を、日本国内むけにあらためて再掲する。 も口頭にて発表された。本論集第Ⅲ部の概論として不可欠なため、 Service International Symposium, Say about "Technology and Value of Brand", May 29th-June 1st, 2014 Jeju, Korea V 今回関係各位の許可を得て、 必要な旧正を加えた異

- 2 福住廉「民間企業による新たな検閲:ルイ・ヴィトンが引き起こした作品撤去事件」(『あいだ』一七三号、 九~一八頁)。 11010
- 産としてのCMの保存と公開を考える」(「思考の隅景」連載八九回、『図書新聞』二七七三号、二〇〇六年五月六日付)。 れを「正しく」解釈するには、著作権関係の訴訟で実務経験も豊富な弁護士の解説が不可欠である。 山田奨治『日本の著作権はなぜこんなに厳しいのか』(人文書院、二〇一一年)。巻末に著作権法の抜粋があるが、こ 稲賀繁美「文化遺
- 有」が問題となるので、注記する ルードンの 八四六年)を執筆するが、そのマルクスによる意図的誤読が 「海賊は共通の敵」(米中覇権の時代・連載第二回)『毎日新聞』二○一二年二月二○日付。ここで想起すべきは、プ | 所有とは何か| (一八四〇年) | 所冇 proprieté は財産をも意味する。同年プルードンは『贫困の哲学』(一 『哲学の貧困』である。 追って本稿で「貧困」と「財産所
- 5 Camille Pissarro, Lettres à son fils Lucian, Paris, Albain-Michel, 1950, p.318
- 6 77, July 1989, pp.118-129. Abigail Solomon-Godeau, "Gone Native: Paul Gauguin and the Invention of Primitive Modernism," Art in America
- 7 littérature et en art, L'Harmattan, 2002, pp.11-24. Shigemi Inaga, «Tahiti et la migration des signes, Représentation du paradis terrestre chez Paul Gauguin et quête la créolité dans le language plastique au tournant des XIXº et XXº siècle». Multiculturalisme et identité en
- 8 地中海を結ぶ交流史』(名古屋大学出版会、二〇〇八年) 家島彦一『海が創る文明:インド洋海域世界の歴史』(朝日新聞社、 一九九三年)、 『海域からみた歴史・イ
- 9 フェルナン・ブローデル 一九九一年~)。 一フェリへ二世時代の地中海と地中海時代 (一九四九年)。 日本語訳は 地中海 (藤原書

10

宮崎正勝

鄭和の南海大遠征:永楽帝の世界秩序再編

中公新書、

九九七年、

一〇四~五頁)。 ル ヹ ・リヴァ

- シーズ「中国が海を支配したとき」(君野隆久訳、新書館、一九九六年)
- 11 12 古典的な一般向きの著作として、三上次男 陶磁の道 (岩波新書、 一九六九年)
- が投影されており、論者の政治的立場を捨象できないため、客観的な学術的解釈を導くことがきわめて困難な状況にあ 後期に分けられる倭寇については、その人種構成についての学術論争には韓日の政治対立や侵略戦争史観をめぐる論争 田中健夫。東アジア通交件と国際認識(吉川弘文館、 秦野祐介「倭蔲と海洋史観」(」立命館大学人文科学研究所紀要」八一号、二〇〇二年)など参照。 一九九七年)、第1部「倭寇と東アジア通交圏」。なお前期と
- <u>13</u> Singapore, 1982. 白石隆『海の帝国:アジアをどう考えるか』(中公新書、二〇〇一年、四六~四七、二〇九~二一〇頁) Oliver Wolters, History, Culture, and Religion in Southeast Asian Perspective, Institute of Southeast Asian Studies
- 14 Empire にかんする英文の記述は、オットマン帝国と西欧諸国との相互的関係について、極めて脆弱な情報であり、ま た本項に日本語記事は登録されていない。 一二年、一二八~一四九頁)。なお二〇一二年四月九日段階で参照した Wikipedia の Capitulations of the Ottoman 松井真子「オスマン帝国の「条約の書」にみる最恵国条項」(鈴木董編「オスマン帝国史の諸相」山川出版社、二〇
- 論文「中国の銀吸収力と朝貢貿易関係」に、この段階での図式が提示されている。なお欧米側からみた概説としては、 Anthony Reid. Southeast Asia in The Age of Commerce 1450-1680. Yale University Press, 1988, 1993. トハンロー ニーと清の乾隆帝との熱河における謁見(一七九二)が有名だろう。明代よりより遅れる時期だが清代の朝貢関係に関す 中国の朝貢制度に対する西側世界の誤解が絡む案件としては、英国王ジョージ三世の全権使節ジョージ・マッカート |ード/平野秀秋・田中優子訳『大航海時代の東南アジア』(法政大学出版局、上巻一九九七年、下巻二〇〇三年)。 濱下武志・川勝平太編『アジア交易圏と日本工業化 1500-1900』(リブロポート、一九九一年)所収の濱下
- 16 しろ「東インド会社はアジアの海賊」と題すべきであろう。 東洋文庫編「時空をこえる本の旅2」に『東インド会社とアジアの海賊』(二〇一二年)という小冊子があるが、
- <u>17</u> 一般向きの教科書として、川勝平太「NHK人間講座 近代はアジアの海から (NHK出版、 一九九九年) -
- (18) 太田義器『グロティウスの国際政治思想:主権国家秩序の形成』(ミネルヴァ書房、二〇〇三年)など参照
- 櫻井正一郎 【女王陛下は海賊だった:私掠で戦ったイギリス」 (ミネルヴァ書房、二〇一二年)。
- 注(13)九三~一〇二頁。 る章には、海賊の実態とそれへの著者の眼差しが窺われ、参考になる。同じ逸話の国際政治学からの読解は、 鶴見良行『マラッカ物語』(時事通信社、一九八一年)九五頁。本書第2章「海に生きる人びと」の「海賊」と題す 白石前掲
- 川勝平太『文明の海洋史観』(中央公論社、一九九七年)。現時点で読み直すと、大胆だが議論がいかにも荒っぽい
- 洋経済新報社、二〇〇三年)。 近世』(一九五〇年、中公文庫版一九九九年)。産業・交易史の立場からは川勝平太・濱下武志編『海と資本主義』(東 マルクス主義の観念的な適用による世界史構想への反論として、 日本における古典的な書籍には、宮崎市定『東洋的
- University Press, 2006. Bonner Zeitschrift für Japonologie, Hayami Akira, "A Great Transformation: Social Economic Change in Sixteenth and Sevententh Century Japan," Vol.8, 1986, pp.3–13. Jean de Vries, The Industrious Revolution, Cambridge
- 24) 速水融 近世日本の経済社会 (麗澤大学出版会、 1001年)
- 25 そうした交易の実相と富の流入は、今に残る祭礼からも復元できる 鶴岡真弓編『京都異国遺産』(平凡社、二〇〇
- 26 Kakuzo Okakura, The Book of Tea, 1906; Dover edition, 1964, pp.64-5.
- 27 ドウズ昌子 「イサム・ノグチ 宿命の越境者」 講談社、二〇〇〇年、文庫版二〇〇三年)
- 28 アナツイのアフリカ展 記念シンポジウム 異文化の表象と展示空間の政治学」報告書 (二〇一一年)。 稲賀繁美「彫刻から廃品再生金属織物へ」「あいだ」一七八号、二○一○年)。埼玉県立近代美術館「彫刻家エ ル
- members of Indo-Japanese Association, Tokyo, 15 May, 1929. 以下や参照:Rustom Bharucha, Another Asia, L'esprit Mingei au Japon, de l'artisanat populaire au design, 30 sep. 2008-11 jan. 2009, Galerie Jardin, Musée Quai 同様の認識への詩人タゴールの回想は、 R. Tagore, "On Oriental Culture and Japanese Mission," address Oxford to te

University Press, 2006, p.170.

31 岡倉の西側世界の学術への評価は、Kakuzo Okakura, Collected English Writings, Heibonsha, 1984, Vol.2, p.132

330

- 32 八〇~八六頁)。 稲賀繁美 「岡倉天心とインド」 (モダニズム研究会 『モダニズムの越境I:越境する想像力] 人文書院、一〇〇四年、
- 33 279; 384 390 Shigemi Inaga, "Is Art History Globalizable?" in James Elkins (ed.) Is Art History Global? Routledge, 2007, pp.249-
- 「60年代の青年運動」(アジア遊学 四二号、二〇〇二年) Alain Rey, Révolution, histoire d'un mot, Gallimard
- 子訳「世界美術史アトラス」(東洋書林、二〇〇八年) 関連して参照すべき書籍には、David Summers, Real Spaces, Geography of Art, The University of Chicago Press, 2004. U.P. World Art History and the Rise of Western Modernism, Phaidon, 2003. Thomas DaCosta Kaufmann, Toward a John Onians (ed.), Atlas of World Art. Laurence King Publishing, 2004: ジョン・オナイアンズ / 薩摩雅登・川野美也
- Aesthetics, Visual Studies, Clark Studies in the Visual Arts, 2003. 学術パラダイムの地理的移動については、 the Foundations of Art History, Cornell University Press, 1984. Michael Ann Holly+Keith Moxey, Art History, 歴史としての学問(中央公論社、 西欧美術史学の中心がドイツ語医から北米英語圏へと移動した実相については、Michael Ann Holly, Panofsky and 一九七四年、新版一九八六年)。 中山茂
- ここで参考となる思弁としては、Terry Smith, What is Contemporary Art, Chicago, University of Chicago Press
- Georges Bataille, Lascaux ou la naissance de l'art, 1955. ジョルジュ・バタイユ 出口裕弘訳 一九七五年) ラスコーの壁画
- たちの時間』(人文書院、二〇〇五年)。 Georges Didi-Huberman, L'image survivante, Histoire de l'art et temps des fantônies selon Aby Warburg, ディディ=ユベルマン/竹内孝宏・水野千依訳「残存するイメージ:アビ・ヴァールブルクによる美術史と幽霊 Minuit,
- 稲質による武解は、稲質繁美「イヌージはいかに生まれ、伝播し、体験されるのか」(『図書新聞』二七八九号、

による美術史と幽霊たちの時間』を読む」(『あいだ』一三二号、 〇〇六年、二二~二六頁)。改題「ジョルジュ・ディディ=ユペルマン著『残存するイメージ』アピ・ヴァールブルク 〇六年九月九日付)。および「イメージ解釈学の隠蔽に西欧治世紀文化史の犯罪を捕発する」(「あ 二〇〇六年、 八十二七页)。 いだ」二三人

- 41 Yawarra Kuju, The Canning Stock Route, National Museum of Australia, 2012.
- National Museum of Australia, Sydney, 2012. be. It is about knowing your responsibilities for the past, present and future." Newtown, 1997. From the Panel at the knowing your place and role in the world. It is about being aware of the interrelatedness of all that was, is and will Adrian Tucker, "Spirituality is more than the awareness of one's self. It is the awareness of and responsibility for
- 「いま〈世界文学〉は可能か?:全球化のなかで二十一世紀の比較文学の現在を問う」(『比較文学研究』九二号、二〇 これらの思索に対する筆者の反論あるいは代替案として、稲賀繁美「地理学的想像力から地学的想像力へ:酒井直樹氏 Graphs, Maps, Trees: Abstract Models for a Literary Hsitory, 2005. Novel (ed.by F.M.) in 2 vols, Princeton U.P., 2006 の講演「翻訳と地図作成術的想像力」を聴いて」(「図書新聞」二八七九号、二〇〇八年七月二六日付)。また稲賀繁美 世界文学史を巡る議論で、参考になる論点として、Franco Moretti, Atlas of European Novel, 1800-1900. 一○四~一二一頁)。とりわけ放浪の普遍主義への反論として、注(15)。
- 44 稲賀繁美「トポロジー空間のなかの21世紀世界美術史」(その4)(あいだ。一四八号、二〇〇八年、二七~三二頁)
- 45 る議論として、今福竜太『群島―世界論』(岩波書店、二〇〇八年)。今福竜太・吉増剛造『アーキベラゴ:群島として の世界へ』(岩波書店、二〇〇六年)。 こうした知的=物理的な領土意識に裏打ちされたヘゲモニーに対して、「島嶼・群島」の比喩によって掘り崩しを図
- 46 成:東洋/日本美術の収集・展示・露出とその逆説」 年、七五~一〇一頁)。 美術品の認知における西側の価値観の優位については稲質繁美「近代の国家コレクションと民間コレ (記号学研究 特集「コレクションの記号学」 一号、 クショ 11001 ンの形
- 47 (日本比較文学会編 越境する言の葉 彩流社、二○一一年、二二~三○頁)。与那覇潤 文化間翻訳における戦略問題として解明されるべき問題である。稲質繁美「翻訳の距離と比較文学の前線」 一翻訳の政治学:近代東アジア

48 題について示唆に富む 日本の文化的認知とその西側世界の認識装置への依存性については、稲賀繁美「ロラン・ バルトあるいは虚構として

世界の形成と日琉関係の変容』(岩波書店、二〇〇九年)、とりわけ序論。与那覇の博士論文は、「海賊史観」と翻訳問

- <del>4</del>9 年四月一八日)の講演〈http://homepage2nifty.com/mono-gaku/〉参照 の日本」(「表象としての日本」 放送大学教育振興会、二〇〇四年、一五一~三貞) 稲質繁美「ものぐるい、うつわまわし、まあい、あそび」(モノ学・感覚価値研究会第二回アート分科会、二〇〇九
- 50 倪海峰については Kitty Zijlmans, The Return of the Shreds: Ni Haifeng, Valiz, 2008.
- 51 University of Washington Press, 2004. 宮下喜久朗『刺青とヌードの美術史』(日本放送出版協会、二〇〇八年)。 刺青の文化史的周辺性の意味については Christine Guth, Longfellow's Tattoos, Tourism, Collecting, and Japan
- 52 物質感とその価値基準の相違については、モノ学・感覚価値研究会編『物気色』モノケイロ』(美学出版、二〇一〇
- 53 稲賀繁美「トポロジー空間のなかの21世紀世界美術史」(3)(あいだ) 四七号、一〇〇八年)参照
- London, 1994. Rosemary Scott & John Guy eds., South East Asia & China: art, interaction & commerce, London: University of
- 立博物館、サントリー美術館、二〇〇八~九年)に出品された。同図録の永島明子「japan 蒔絵! たヴィクトリア&アルバート美術館の蒔絵箱が、 の燦めき」参照。 日高蕉『異国の表象:近世輸出漆器の創造力』(ブリュッケ、二○○八年)第二~三章。本書カヴァー写真にとられ その典型である。またこれらの作品は『japan 蒔絵』展覧会(京都国 -宮廷を飾る
- 56 の流通経路復元が、歴史復元に不可欠となる。 稲賀繁美「隠喩としての漆蒔絵」(『美術フォーラム21』 一九号、二〇〇九年、 一五~一一九頁)。 海賊行為と贋作
- 57 として書籍の題名となる世相、 折から、日本敗戦後の原油輸入に先鞭をつけた出光興産の創業者、 巷で話題となっている 実際にはCIAこそが現在の海賊に他ならぬこと、そしてこの主人公の「海賊行為」と 百田尚樹「海賊とよばれた男」(講談社、二〇一二年)「海賊」が事業成功者のあだ名 出光佐三についてのノンフィクション仕立ての小

はメジャーの市場期権に割り込んで、結果的には合法的に日本の利権を確保したことにある点は、 年に翻訳出版されている ベン・ ロペス ネゴシエー ター 人質救出への心理戦」が土屋晃、近藤隆文訳により、 柏書房から二〇一二